

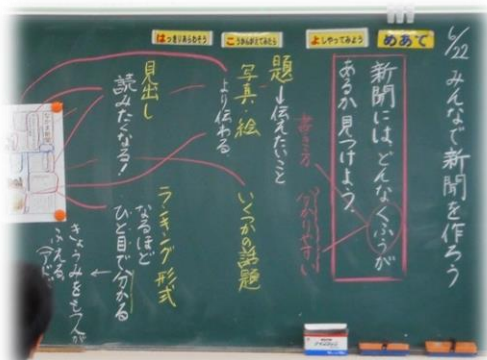
第3話：水無月「一人一人に活躍の場を」

学級や学校の中で、子どもたち一人一人に居場所があり、仲間に支えられながら、自分の役割を果たすことが大切であると考えています。

そのために取り組んでいるのが、子どもたち同士が学びあう授業づくりです。本校では、以前から「よこはま学習」を合言葉に、授業づくりを進めてきました。それは、「よ」めあてを考える、「こ」自分で問題を解決する、「は」友だちと話し合って問題を解決する、「ま」まとめや振り返りを次の学習に生かす、というものです。これらを受けて、各学年ごと、短い期間で具体的にに取り組む目標を定め、授業をおこなっています。具体的には、「理由をつけて自分の考えを話す」「友達の意見を聞いて、自分の考えを話す」等、話すこと・聞くことを中心に取り組んでいます。



子どもたちに質問をして、答えるだけでは、学び合いにはなりません。しかし、答えは一つでも、その答えをどのように考えたか（理由や根拠）は、児童によってちがいます。（答えは同じでも、理由は違っている、または、理由も同じだと感じるかもしれません）ここに、児童が興味をもって友達の話を聞けるかどうかのカギがあるように思います。実際、子どもたち同士で議論が始まったら、聞き手の集中力が増すとともに、友達の考えに影響を受けて、どんどん自分の意見を深めて、発表している場面を何度も目にしました。こうした学びあいにより、児童一人一人が他者から認められ、クラスの一員として活躍しているという安心感をもてるのではないかと思います。



4年生が、「新聞にはどんな工夫があるのか見つけよう」というめあてで学習していました。子どもたちは、新聞に写真、絵、見出し、表があることに気づいていましたが、これらによって、「どんなよいことがあるか」という理由を話し合うことで、子どもたちの考えがどんどん深まっていくのを感じました。

このような取組を教職員間で交流し、学びあってこれからの授業に生かしていこうと考えています。

